

雪印メグミルクは2日、大樹工場を含む道内7工場に2020年度、非常用の自家発電設備を設けると発表した。昨年9月の胆振東部地震による大規模停電で操業停止した教訓を受けた対応。大樹工場では生乳の受け入れはできず、製品の冷蔵など設備維持のための電源になる。

7工場は大樹の他、磯分内工場（釧路管内標茶町）、なかしべつ工場（根室管内中標津町）など。

磯分内は停電時に加工はできないが生乳の受け入れは可能。他の工場は製品の冷蔵設備や、電源が復旧後すぐに工場稼働に移るために必要な設備維持の電源を賄う。

全体の投資額は約14億円。同社は各工場の内訳や発電出力について明らかにしていない。

大樹、広尾両町から集乳する大樹工場は、昨年の大規

模停電時に自家発電設備がなく生乳を受け入れできなかった。

今回の投資で停電時もチーズの発酵に必要な冷蔵電源や工場設備維持の電源を確保する。

同社は「停電が丸1日続いても電源が維持される想定。復電後にスムーズに工場が稼働できるようにする」としている。20年10月以降の設置完了を予定する。

南十勝酪農女子 交流に花 苦労や感動共有

2019年9月7日

酪農業に関わる女性たちが学びながら交流する初の「南十勝酪農女性プチサミット」が5日、JA大樹町会議室で開かれた。約60人が集まり、楽しみながら仕事への活力を得ていた。

全国規模で12月3、4の両日に帯広市内の北海道ホテルで開かれる「酪農女性サミット2019 in 帯広ファイナル」（実行委員会主催）と連動した催し。同サミットで実行委員長を務める広尾の酪農家、砂子田円佳さん（36）ら南十勝の関係者が今回のプチサミットを主催した。JAひろお（萬亀山正信組合長）、JA大樹町（坂井正喜組合長）、JA忠類（蛭原一治組合長）が協賛し、3組合長も出席した。

最初に十勝農業改良普及センター十勝南部支所の井堀克彦地域係長が「哺育牛の管理」について情報提供。続くパネルディスカッションでは、砂子田さんを進行役に、山下展子さん（51）＝JA大樹町、河口晶子さん（43）＝JA忠類、田辺晃子さん（38）＝JAひろお＝の3氏が、それぞれの牛の哺育について説明した。

話題は広がり、田辺さんが「女性として、母として尊敬できる先輩、仲間がいるから仕事を頑張れる」と話し、思わず涙ぐむ場面も。7人の子どもを育てる河口さんや、哺育預託組合を運営しながら町社会福祉協議会の理事を務める山下さんなど、さまざまな酪農との向き合い方に来場者は熱心に聞き入っていた。

夫との仲直り法など、女性ならではの話題では共感の笑い声が響き、立食形式の昼食やグループ対抗「らくの

うかるた」対決も好評。最後は全員で広尾町酪農音頭を踊り、砂子田さんが「たくさんの笑顔が見られてよかった。これからも地域を楽しく盛り上げましょう」と締めくくった。

参加した大樹の村崎佳代さん（40）は「子育てと仕事の両立の話は参考になった。やる気が出ました」と話していた。

12月の酪農女性サミットはフェイスブック（FB）で情報を発信中。参加申し込みは酪農業界で働く女性を対象とした先行受け付けが17日から。一般受け付けは10月1日からで、FBなどから申し込める。



初の「南十勝酪農女性プチサミット」で交流した参加者ら